



トップニュース：全国で存廃問題！ ROBAにも各地から協力要請

このところ、全国各地で鉄道の存廃問題が起きています。上田交通、日立電鉄、くりはら田園鉄道、北海道ちほく高原鉄道、のと鉄道、島原鉄道、果ては、名古屋鉄道、南海電鉄、京阪電鉄まで。京阪電鉄の場合、京都市と大阪市という大都市圏の隣り合う2つの府県庁所在地を結び、その市街地を走る大手私鉄の路線が対象だけに驚きます。京福電鉄が2度目の事故を起こして存廃問題がクローズアップされた時、ROBAの会は「京福電鉄の2度の重大事故が露呈したのは全国の地方の鉄道の問題」と指摘しましたが、事態はとうにその段階を超えてしまいました。こんな時、まず意識を変えなければならないのは沿線住民で、行政だけに任せ切りには出来ないということはいろいろな事例を経て次第に認識されてきており、「鉄道を存続させるにはどのような活動が必要か」について、各地の鉄道沿線の住民団体等からROBAの会にも助言を求めてくる動きが顕著になってきています。当時、ROBAの会は表面に出ない活動も含め、いろいろな活動を経験しました。それが他の地域で活かされるのなら喜ばしいことですね。さきの総会でも内田会長が、「京福電鉄の存廃問題の時はいろいろな方に助けてもらった。今度は、求められれば会としてできるだけ協力していきたい。」という話をされています。ROBAの会が一番伝えたいのは、「大切なのは存続してからの住民参加による乗るしくみづくり」というところ。ROBAの会がその一翼を担って実践し続けるところを、ずっと見てもらえれば嬉しいですね。（文：清水）

活動報告

- 5月16日 ROBAの会3周年記念講演
講師：本田豊氏
ROBAの会第4回定例総会
- 5月22日 全国路面電車ネットワーク総会 in 岐阜
- 5月29日 福井市NPO推進議連主催意見交換会
- 5月31日 福井鉄道福武線活性化検討協議会参加
- 6月3日 第21回まちづくり懇談会
福井県立大学ROBAの会講義
- 6月8日 6月運営会議
- 6月21日 全国都市再生モデル調査最終提出
- 6月25日 6月例会・ROBA勉強会「福鉄活性化次の一手 ROBAならどうするワークショップ」

今後の予定

- 7月1日(木) 日立電鉄沿線市民団体来福交流会
第3回アドバイザー会議(報告会)
- 7月8日(木) 第22回まちづくり懇談会
- 7月9日(金) マップ・バスマップサミット部会
- 7月13日(火) 運営会議
- 7月17日(土) 中部地区路面電車サミット in 岐阜
- 7月18日(日) 群馬県公共交通活性化フォーラム
参加(林h他)
- 7月19日(月) わたらせ渓谷鉄道ワークショップ
参加(林h他)
- 7月23日(金) 7月例会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

都市計画(社団法人 日本都市計画学会機関紙)

25 Apr. 2004 Vol. 53/No. 2

ISSN 0495-9280 248 日本都市計画の情報発信

「日本の都市計画は世界にどう見られているのか」、「日本の都市計画が世界にアピールできる点はあるか」これは今月の「都市計画」のテーマである。よく規制の緩さが批判される日本の都市計画であるが、多用途の混在した魅力ある市街地、鉄道や道路の急速な整備で欧米をはるかに凌ぐ速度での都市化を、目立ったスラムの形成を見ずに達成できたことは評価されるべきであるが、更なる魅力作りには課題が多い。短い文章ではあたりまえの結論になるが、多方面から外国人の言葉を借りて書かれると納得してしまうから不思議である。

上に書いたようなことをぼんやりと思っていたが、それを確信できる客観的な意見が欲しいという人におすすめの書である。

(文・美濃部)

外出支援事業実行委員会に参加して 040403

最近、『つないで生きる！公共交通とまちづくり』について話し合っていくうちに、「工夫でなくす不便な地域」と初めは考えて議論してきましたが、「工夫でなくす不便な交通の人たち」も必要なテーマと思い始めて今回「あいじつ（ふくい愛の実行の運動の会）の活動の一部である外出支援事業の働きを知りたく委員会に参加しました。

この事業を会員制で利用者と運転協力者の相互扶助のもとで成り立っています。現在会員が34名(15年度現在)いるそうです。仕事の内容は障害者を福祉車両に乗せそれぞれの目的地に送迎するのですが、障害者の生活圏の拡大や社会参加・自立を促進することを目的としています。委員会に参加していたのは10名くらい。話し合いで気になったことが2つあります。運行状況と運転講習についてです。

運転状況について

この日、運転協力者の一人がある新聞記事を持ってきてそれを中心に話が進んだ。内容は「福祉車両事故で死亡保安基準未整備現状では貨物扱い」の記事でした。福祉車両に車椅子生活者を車椅子のまま乗せ車椅子を固定し人をベルトなどで固定し安全確認して乗車したとしても、荷物扱いになるという事です。人扱いになるのは車椅子をトランクへ人を座席へシートベルトをして乗車してこそ人扱いになるそうです。この保安基準はおかしいと委員会参加者数名が言っていた。僕もビックリしてしまった。

それに、町にはノンステップバスやリフトバスが運行しているが、車椅子生活者が乗車した時にはどうだろうと疑問に感じました。保安基準では人は人として接していない所があるのは悲しいです。運転講習について運転協力者が講習を受けるのですが、教材に教育ビデオ・過去の経験を活かした資料などがある。

その他に募集する際、本会の目的に理解がある方・運転経験が3年以上で21才以上の方・当会の実施する講習会を修了した方・交通ルールや時間厳守し介護の対応、接客マナーができる方がいる。

委員会に参加してみて、それぞれの役割や利用者の意見を尊重し大切に受けとめ、ほのぼのとした会でした。
(水野)

会員のひろば



水野俊典(みずの としのり) 1975

みなさんはじめまして水野です。ROBAの会に入会のきっかけはのりのりマップを見て、「すごい」と感動したからです。けれど工夫したら「もっとすごい」と思ったからです。僕自身少し病気があり車に乗れないので電車やバスを毎日のように利用しています。その関係で「患者会」のボランティアとして活動していき、いつも感じることは普段僕も含めてどのように外出しているのか疑問でした。車や電車・バスを利用しているのですが行動範囲は決まってくるかと思えます。

これから、ROBAの会で活動して行く中でのりのりマップを便利に自分で活用して工夫や提案、理解していく中で「どこにでも行けてこんな発見があった」と人に教えることができるようになっていきたいです。簡単ですがこれからどうぞ宜しくお願いします。

このような文でよろしいでしょうか。文章に自信がなくまたなんでもいので教えてください。どうぞ宜しくお願いします。

路面電車NET 岐阜大会 040522

路面電車ネットワークの年次大会が、名鉄の撤退表明で揺れる岐阜市で開催され、ROBAからも内田会長はじめ4名で参加しました。

大会は廃線表明された路面電車（名鉄岐阜市内線）を使っての視察で幕を開けた。超党派の国会議員で構成するLRT推進議員連盟（代表：逢沢一郎氏）からも多くの参加があり、沿線の市民の声を聞く姿がみられた。総会では運営委員長の岡氏（RACDA）より存続のための試算の発表と将来計画についての試案が提案された。

討論会は岡委員長（RACDA）のコーディネートで、万葉線（RACD（守る会））の先行事例報告からスタート。地元岐阜の経済同友会は地域経済発展の視点から、ヨーロッパのLRT政策を見習い交通憲章の制定や構造改革特区を使って都市構造そのものを変えることを提案。

名鉄系の岐阜バスの関谷社長からは電車がなくなってもその分バス利用が増える訳ではないことや、これまで名鉄が平面電停や自動車の軌道侵入などの改善を求めてきたが認められなかった経緯を、運行肩代わりに名乗り出た岡電の磯野常務は上下分離や運行環境の改善が前提と発言。パネラーの皆さん報告に熱が入り予定時間を大きくオーバー。討議自体は大幅縮小も無事アジェンダ（岐阜宣言）を採択して閉会。

岡電の登場でいくぶん状況が好転したようにも見えますが、コメンテーターとして参加された加藤助教授（名古屋大）の「延命（現状のまま存続）することは問題の先送りに過ぎない。岐阜市を愛する人々の役に立つ乗り物に変えられるかという命題であり他力本願では解決しない。救いの手（岡電）の出現で他人まかせになってはいけません。」という言葉の意味は大きいと感じました。その後、参加者は街頭に出て署名あつめに協力し、地元商店街で買い集めた”岐阜の味覚”でアットホームな懇親会。

帰りのしらさぎでは宇都宮浄人氏（[路面電車ルネッサンス](#)の著者）と偶然同席となり、高岡、金沢から参加のメンバーと記念撮影。機会があれば福井で講演してくださいとお願いしておきました。報告：さとう



泉



事例報告する清水会員



関谷社長と加藤助教授



参加者も署名集めに協力



宇都宮氏を囲んで

福井市議会非営利公益市民活動推進議員連盟

第2回意見交換会に参加して

5月29日(土)14:30～ 福井県教育センターにて、第2回目の意見交換会が開催されました。発足記念が2月21日だったので、3ヶ月ぶりでしょうか...。

発足の時は訳が分からず、どんな事が起こるのだろうか！と好奇心旺盛な気持ちで参加しました。まずは手始めなので、NPO とは？について説明があり、続いて NPO 団体の事例紹介をして何事も無く終わり、交流の場で語り合い、お互いの期待や不安・課題を認識して道が見えてきた気がしたのは、ROBA のメンバーとその他の一部の人だけだったのか。

今回の意見交換会は、殺気立った雰囲気が漂ったり場の雰囲気が違いました。活動内容の違いでこんなにも考えが違うのか！とやはり思い知らされ、NPO の本質を会議の間ずっと考えていました。

< 主な意見交換 >

- ・まちづくりは自分達の地域しか考えていない。
- ・自分達が考えていることを条例化してもらえないか。(議員に対しての要望)
- ・協働は NPO 団体と行政・議員との協働だけか。
- ・各団体の助成の実態や会計方法はどのように行なっているか。
- ・助成金が団体によって不公平な感じがする。ケタ違いで助成金をもらっているのに、まだ苦労しているという報告は不愉快に感じる。
- ・NPO 法人として活動している実態として、行政がやってくれないから仕方なく活動している。
- ・NPO の会計が面倒で助成金の手続きも面倒。
- ・議員がまず、どこかの NPO に所属すべきでないか。

以上が主な意見ですが、「良いことをしているのに」という押し付けの考えが、まだまだ強いと感じました。これからは自分達の団体だけでなく、本当の意味での協働を進めないと、次の世代へ続くまちづくりや人づくりは上手くいかないんだ！と言う事を早く気付いて欲しいと感じました。

(畑)

(松宮 勲さんも出席され、熱く熱く語っていただきました)

当日参加したメンバー

文化芸術フォーラム	さくらこども図書館	すてきな高齢者をつくる会	スリーAクラブ
社南公民館	みやま未来塾	福井市市民協働推進課	ドラゴンバ-交流会
まちなかNPO	WAN WAN ファミリーの会	タバコ環境NPO ネット	ハートライセンス
ハレバレ会	ライフスタイル研究所	街づくり家づくり応援隊	WAN・WAN ファミリーの会

福井県立大学浅沼ゼミでROBAの会が講義！

内田会長と林博幹事が講師となり、都市再生モデル事業調査をもとに講座をもったときの報告します。

日時：平成16年6月3日（木）午後2時40分～午後4時40分まで

場所：福井県立大学 経済学部棟 9階 講義室

浅沼先生（経済学部経営学科 公益事業ゼミ 浅沼助教授）のゼミで大学生14名（男子9名、女子5名、県内出身90%、クルマ所有100%）でした。

（PPでスライドを見終わって）いくつかの質問形式で皆に発言をしてもらうようにした。

Q1えちぜん鉄道を利用してどうだったか？の感想では、アテンダントに対する評価は高く、次いで車内がきれいなこと、高校生や高齢者が乗っていたことにも関心が高かった。一方乗り継ぎの悪さ（時間のことや料金が高い：運動公園からいくと往復2000円もかかってしまう）や駐車場がないことへの不満が聞かれた。また、特に新保駅を指して、駅がわかりにくいと案内不足への不満も多かった。

Q2もしクルマを所持していなかったらどうやって学校までくる？との質問には、大学周辺以外の学生は電車、バスを使用すると回答、しかし、今は全員クルマを所有しているのでクルマで学校まで来ると言う。

Q3大学まで徒歩でこれる学生（5名）になぜ、クルマに乗るの？との質問には、辞書等持ち物が多く、講義が終わった後の次ぎの行動に制約が生じる（アルバイト等）などの理由から歩いて来れる学生でもクルマを使用するという。

Q4今日の説明を聞いて堂感じたか。との問には

- ・まちづくりにLRVを入れるのは大変良いことだと思う。
- ・電車は時間通りにくるのでその時間に自分の生活を合わせれば、遅刻もしない。
- ・お年寄り等の交通弱者にとってはバス・電車は便利だと思う。このことをドンドン知らせていきたい
- ・便利なバス・電車に乗る運動の呼びかけがどこまで広がるのか心配だ。
- ・電車に慣れればいいが、クルマからバスへの転換は生活の様式を変えねばならないので難しい。
- ・電車はいいが、そこへ行くまでの交通手段が少ない。乗り継ぎは悪いし、後続がこない。
- ・電車・バス時刻表のことは知らなかった。インターネットでここまで調べられると利用しやすくなる。
- ・乗ってもらう企画は大変いいと思う。電車で行く温泉なんかのプランをつくっていくのはどうか？
- ・美山のコンビニにいったときに初めて駅がそばにあるのを知った。
- ・バス停で待っているのはつらい。屋根がある方がいい。
- ・路線バスと高速バスの接続が悪く、パーク＆ライドがあればより利用しやすくなると思う。
- ・高校生のときに知っていればもっと公共交通機関を利用使っていたと思う。
- ・自宅と大学のルートしか知らなかった。バスマップを知っていれば、行動範囲が広がったと思う。
- ・電車に乗っている事案はいいんだが、乗り継ぎ時間を有効に使いたいと思う。
- ・お試し期間を設定し、更にお試し料金で安くしてはどうか？例えば100円とか。

（最後に会長からのまとめ）

経済学部の方をお願いしたいことは、電車に乗っていないからといって、全て経済的に不経済だから公共交通は「悪」というような見方はしないでほしい。金銭に換えられない価値もあるのだから。このことをこれから学んでほしい。また、公共交通から生まれる経済効果もあることを知ってほしい。



講義風景（正面左から浅沼助教授、内田会長、林幹事）



真剣な面持ちで講義を受ける学生諸君

第21回まちづくり懇談会の報告

日時：6月3日（木）19:00～22:00

場所：駅前商店街会議室

参加者：ROBA/佐藤,玉井,堤端,高橋,門田,内田

まちなかNPO/永井,大森,村北,古市,今川,だるまや西武

議題：「都市再生と交通」講師：藻谷浩介氏

5月17日に開催されました上記セミナーのビデオを上映。その後福井市のまちなかの再生と交通について議論いたしました。

講演は、究極の車社会のため市街地が消滅した刈谷市や松浦鉄道やSCが合体して人が歩く街として賑わう佐世保市の実態を紹介しながら説明がありました。両市とも車社会の中にあって、車の通過交通のなっている刈谷とバス・鉄道・車での利便性が備わった中心街をもつ佐世保を対比させ、福井の中心市街地の再生のありかたを示していました。まさに、ROBAの会で提案する車と公共交通との共存を実証している事例でした。

このあと、まちなかNPO、西武の社員さんも加わりまちなかの交通について議論いたしました。駅前ゾーンを一体的な歩ける空間を確保して、車も便利、電車バスも便利なベストミックスを求めるROBAの会と車の導線を重視して駐車場を配置する姿を描くまちなかNPOとの間でそのデザインに違いがありました。

特に後半は議論が伯仲し21時終了予定が、22時になってしまいました。一度、この熱い議論に参加してみませんか。

次回開催：日時・7月8日19:00～21:00 **場所**・「たわら屋」

議題・引き続き、「都市再生と交通」 **（田原町商店街）**

次回は田原町商店街の役員の方もオブザーバーとして参加されます
（文・内田）

編集後記・・・編集委員より一言

林（変集長）

「7/31又ウクレレライブやりますよー！」

清水（副編集長）

「熱い！どこまでも・・・」

川口（副編集長）

「やっと就職決まりました！」

内田（発行責任者）

「ROBA（ろば）は暑さに強いのかな？」

事務局

ふくい路面電車とまちづくりの会

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL：0776-25-7968

e-mail：roba@mbh.nifty.com

URL：<http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>